

## ストレスによる心臓血管病の発症に扁桃体の活性化が関与

ストレスが心臓血管病の増加に関連することは知られているが、ストレスが心臓血管病のイベント発生につながるメカニズムについてはよくわかっていない。本研究では、ストレス反応に関与する脳内の扁桃体の活性化と心臓血管病イベントの発生との関連について検討した。

2005～2008年に米国マサチューセッツ総合病院でPET/CT検査を受けた、心臓血管病や活動性のがんのない30歳以上の集団を対象に縦断研究を実施し、安静時の扁桃体活性、骨髄活性、動脈硬化性の炎症、心臓血管イベントの関連を調べた。また、別の横断研究において、ストレス、扁桃体活性、動脈の炎症、C反応性たんぱくとの関連を調べた。扁桃体の活性化が骨髄活性や動脈炎を介して心臓血管病の発症に影響を及ぼしているかを分析した。縦断研究は293例（年齢中央値55歳）が対象となり追跡期間の中央値3.7年の間に22例が心臓血管病を発症した。扁桃体の活性化は、骨髄活性の増大、動脈の炎症、心臓血管イベントのリスクと有意に関連し（いずれも $p<0.0001$ ）、多変量で補正した後も有意な関連が維持されていた。心理測定分析を行った13例の縦断研究では、扁桃体の活性化は動脈の炎症と有意な関連が認められた（ $p=0.0083$ ）。また、知覚されたストレスは扁桃体の活性化、動脈の炎症、C反応性たんぱくとの関連がみられた。したがって、扁桃体の活性化が心臓血管病の発症に関連し、活性化の増大が心臓血管イベントの予測因子となる可能性が示唆された。また、扁桃体の活性と心臓血管イベントの関連には骨髄活性の増大や動脈の炎症が介在することも示された。これらの知見は、情緒的ストレスが心臓血管病を引き起こすメカニズムの考察に新たな見解をもたらすものである。

出典：Lancet. Published online Jan 12, 2017; pii: S0140-6736(16)31714-7